

松岡 辰泰(熊本/117期)

柔軟性を兼ね備えた自力攻撃で安定した成績を残していて、直近4カ月の連対率は6割超。11月武雄G3では2②①②着と4日間連対を果たしている。上位戦でも軽視できない。



林 大悟 (福岡/109期)

相変わらず積極的で直近4カ月の連対は93%が逃げてのもの。8月防府でS級初Vを3連勝で達成すると、その後も10月武雄、11月岸和田と続けて準V。久しぶりのG3開催でどこまでやれるか注目したい。



武田 亮 (東京/115期)

今期は初のS級戦。準決が壁になっていたが、11月平では1②**5**着、初の決勝進出を果たした。9月青森記念、10月前橋G3ではいずれも準決に進出し先行している。今シリーズも先行力を猛アピールするか。



レインボーカップチャレンジファイナル

Vラッシュの徳田匠に期待

出場予定選手詳細

[illegible]

12月14日の時点では全員が119回生というメンバー。当然、1月からチャレンジを走ることとなるので、特別昇班を懸けた争いは熾烈を極めよう。初の9車立て、3着以内に入ることが特別昇班の条件となればラインで戦う方が有利。そうなれば神奈川勢を中心視したくなるが、北井佑季と金田涼馬はここまで2開催連続完全Vを決めており不在の可能性がある。そこで狙ってみたいのが徳田匠だ。兄2人がプロのロードレーサーという家系で、本人も地脚が強力。肝心なところでポカがあつて未だチャレンジだが、直近の12月小倉MNも豪快なカマシで制して7V目を達成と脚力的にはすでに1・2班戦、S級を走っている同期にも見劣りしない。より自在に走れる石塚慶一郎が後位を固めれば戦いやすくなるかどうか。



徳田 匠

渡口勝成、米嶋恵介の中国勢は、米嶋が器用なだけにラインを組みやすい。分断策にあつて上手くいかなかったが、渡口は12月奈良MNの決勝でも白井優の前で先行勝負に出ていた。地脚型でラインを意識した先行策に徹していて、こそもレースに迷いはない。渡口が先制なら、自身のタテ脚だけでも勝負になる米嶋には絶好の勝機到来も。

冒頭に触れた通り、本来ならラインで上位独占が有望な神奈川勢。逃げて強い北井、ダツシュが半端ない金田が不在になっても梅田加津也は有力なV候補だ。元スポーツトレーナーの苦勞人で、ここまで6Vと順調に結果を出している。ルーキーシリーズでは位置取りで勝負していたので、単騎になっても苦にしない引き出しの幅がある。

窪木一茂は競技優先の日程で8月以来の実戦。レース勘に問題なければV十分だが…。



梅田 加津也